

近代日本演劇の記憶と文化

全8巻

2014年5月
刊行開始

神山彰 監修
(明治大学教授 / 近代日本演劇)



◎日本の近代演劇はこれまで、新劇を軸に歌舞伎やアンダーグラウンド演劇などとの関係から論じられることが多かった。しかし、数多くの観客の耳目を潤し、その心性に影響を与えた豊かな沃野は、新劇やアンガラという「前衛」と、歌舞伎という「伝統」との間の複合領域・中間領域にこそ存在する。

◎本シリーズでは、その複合領域である大劇場の商業演劇から、現代ではほとんど忘却され失われた演劇まで、多くの観客の生涯の記憶に残った多様な演劇をとりあげる。近代化が進むなかで変容していった近代演劇を、周辺文化にも視野をひろげながら多角的に考察する。



第1巻 (第1回配本 / 2014年5月下旬刊)

忘れられた演劇 神山彰=編

明治期からモダニズムの時代を経て戦後の女剣劇まで、小芝居、女芝居、節劇、剣劇、宗教劇、連鎖劇など、今日ではほとんど忘れられたさまざまな演劇領域と役者たちをとりあげ、近代化が進む日本が失ってきた演劇の面影をたどる。

目次 [I 総論] 近代演劇の「記憶遺産」=神山彰 [II 逝きし世の演劇] 猛優の時代=佐藤かつら 女役者と小芝居の行く末=土田牧子 琵琶劇とその周辺=澤井万七美 宗教演劇の時代=神山彰 [III モダニズムの躍動感] 天勝というスペクタクル=川添裕 踊る芸妓たち=芝田江梨 連鎖劇とその変容=横田洋 節劇・剣劇・女剣劇=神山彰 [IV 回想の演劇] 上方歌舞伎の追憶=山田庄一 演劇は忘れられる運命にある=藤井康生

◎体裁・定価=A5 判上製カバー装 352頁 / 本体 4500円 + 税
ISBN978-4-86405-062-3 C1374

続刊予定 / 2014年秋 (書名・論題は仮題)

第2巻 商業演劇の興亡 神山彰=編

「商業演劇」の興亡=神山彰 近代演劇のなかの新派=みなもごろう 「新国劇」という複合体=神山彰 帝劇の時代=星野高 東宝国民劇の時代=中野正昭 曾我廼家喜劇と松竹新喜劇=日比野啓 極端な俳優・井上正夫=横田洋 東宝歌舞伎と芸術座=水落潔 インタビュー・戦後東宝系喜劇について=小林のりー 「近代化遺産」としての「大劇場」=神山彰 歌手芝居の戦中・戦後=神山彰

第3巻 ステージ・ショウの時代 中野正昭=編

スペクタクルの想像力=中野正昭 初期宝塚・女優から生徒=倉橋滋樹 少女歌劇と歌舞伎=吉田弥生 宝塚歌劇の日本舞踊とその周辺=濱口久仁子 ベテラン女優 VS 十代の少女たち=杉山千鶴 探偵小説家とレビュー・ガール=中野正昭 森岩雄とビー・シー・エル映画の二つの路線=原健太郎 占領期の少女歌劇=川崎賢子 東京の松竹歌劇団と日劇ダンシングチーム=神山彰 秦豊吉と額縁ショウ=京谷啓徳 チャールズ・B・コ克蘭とロンドンのレビュー=赤井朋子 ニューヨークのレビュー=日比野啓 宝塚を二度迎えたベルリートの劇場=萩原健 東アジアの少女歌劇系芸態=細井尚子

以下続刊

第4巻 ミュージカルの変容 第5巻 歌舞伎と新劇の交差 第6巻 興行とパトロン 第7巻 演劇のジャポニズム 第8巻 メディアと演劇

森話社 shinwasha

※最寄りの書店にてご購入下さい。お近くに書店がない場合やお急ぎのときは直送も承ります。
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 1-2-3 Tel.03-3292-2636 / Fax.03-3292-2638 / www.shinwasha.com